令和5年度世田谷区提案型協働事業

～成果報告～

市民提案型協働事業

事業名：マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ

協働する担当課：みどり政策課／庁舎管理担当課／都市計画課

2024年3月26日（成果報告会）

MC事業委員会

大坪義明

PSACE

Portland - Setagaya
Association of Cultural Exchange

世田谷ポートランド都市文化交流協会

MC1（道路植栽）

MC1

歩道（公道）の植栽部分

現状で多くみられるツツジ等の
単種の植えつぶし

花壇や低木・草本の混植

桜木清掃部の活動から

歩道上の目標植栽（上）

ふだんの清掃活動（左）

主な活動

桜木清掃部　都道補助第128号線の『東京ふれあいロード・プログラム』の適用を目指した活動

新たな活動団体・候補地の探求

成　果

東京都第二建設事務所工事第一課との交渉～『東京ふれあいロード・プログラム』適用条件判明

新たな活動希望グループとみどり政策課担当者と共に、区の管理する候補地を検分～『みどりと花いっぱい協定』適用による活動開始を目指す

課　題

上記案件の実現と並行して、さらなる事例の開拓を行う

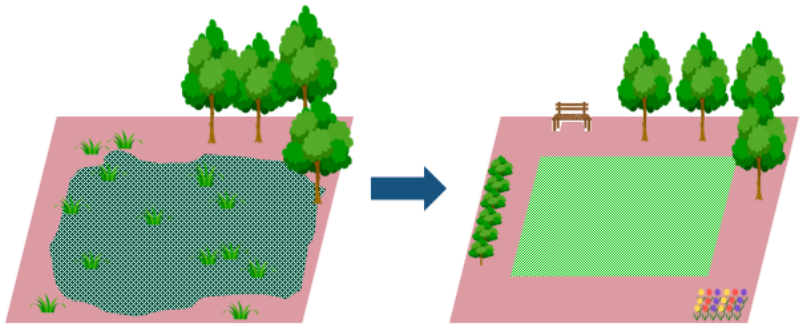
MC2（公園・緑地）

MC2

小規模緑地・街区公園など

閉鎖（非公開）であったり
手入れの行き届かない場所

コモン



区立峰松緑地での活動から

主な活動

区立峰松緑地での管理・利活用活動
　東京農業大学庭道部との連携
　世田谷落ち葉ひろいリレー参加

区の他の管理場所での活動摸索

成　果

区立峰松緑地
　竹林部分の間伐～歩行路確保
　その他緑地内外の整備進展

＊区立北烏山五丁目広場でのコミュニティガーデン活動（MCとは一線を画す）は、今後の活動のヒントに

課　題

区立峰松緑地での運営体制を再構築し、モデルケースとして実施

その他の候補地での活動開始

MC3（新庁舎）

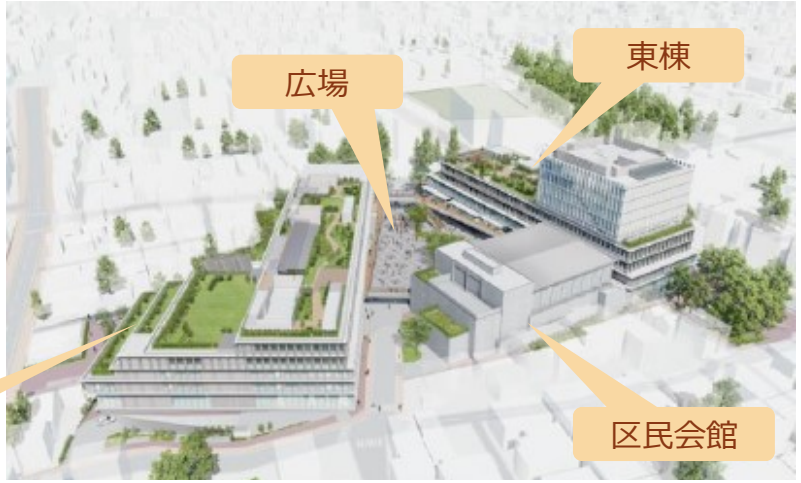
MC3

新庁舎の屋上庭園と広場

公共施設の中の公共施設
シンボル的空間

↓

コモン的管理
他の公共施設への波及効果



主な活動

東棟屋上庭園を中心とする諸課題の検討

広場へのグリーンアップサイクル素材によるプランター設置へ向け、試作

成　果

10.29「新庁舎の屋上庭園の未来を描こう！」ワークショップ開催

グリーンアップサイクル・プランター（上）

シンポジウムでの報告（左）

以下報告

庁舎管理担当課 山場係長

令和５年度世田谷区提案型協働事業　成果報告会

世田谷区
庁舎整備担当部庁舎管理担当課

（MC３）活動報告

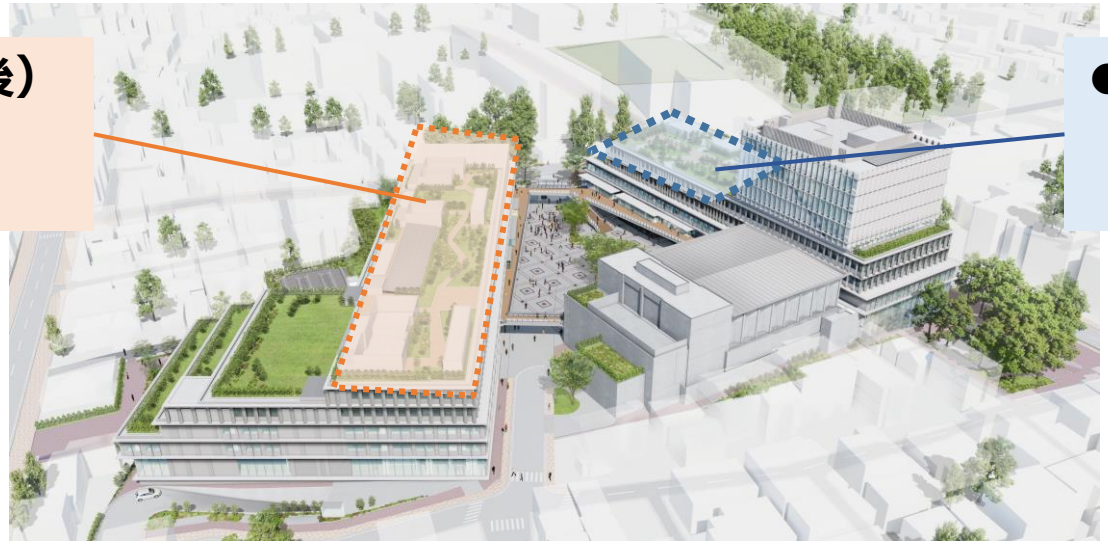
○本庁舎等整備の基本的方針1　：　区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎

区民自治の拠点として、行政サービスの提供に留まらず、**幅広い区民がふれあい、交流することのできる場所として、区民が気軽に立ち寄れ、多様な情報の共有や憩うことのできる区民に親しまれる庁舎を目指す**。
また、区民自治・交流を育んできた現庁舎等の空間特質を継承していく。

「世田谷区本庁舎等整備基本構想（平成28年（2016年）12月　世田谷区）」より

屋上庭園での区民との協働・交流を検討している中で、提案型協働事業がスタートし、
「新庁舎の屋上庭園の未来を描こう！」ワークショップを開催へ！

●西棟屋上庭園（３期竣工後）
・令和11年春頃に完成
・限定利用



●東棟屋上庭園（２期竣工後）
・令和８年秋頃に完成
・一般開放

新庁舎完成イメージ図

令和５年度世田谷区提案型協働事業　成果報告会

世田谷区
庁舎整備担当部庁舎管理担当課

（MC３）活動報告

「新庁舎の屋上庭園の未来を描こう！」ワークショップ　実施概要
日　時：令和5年10月29日（日曜日）　午前9時から午後3時30分
場　所：コミュニティカフェななつのこ（世田谷区南烏山）

新庁舎屋上庭園の設計内容説明

マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ事業説明

花壇のデザインを考えよう

グリーンアップサイクルプランター作業

グループワーク：新庁舎屋上庭園について考えよう

４５名（関係者含む）と、多くの方にご参加いただきました！

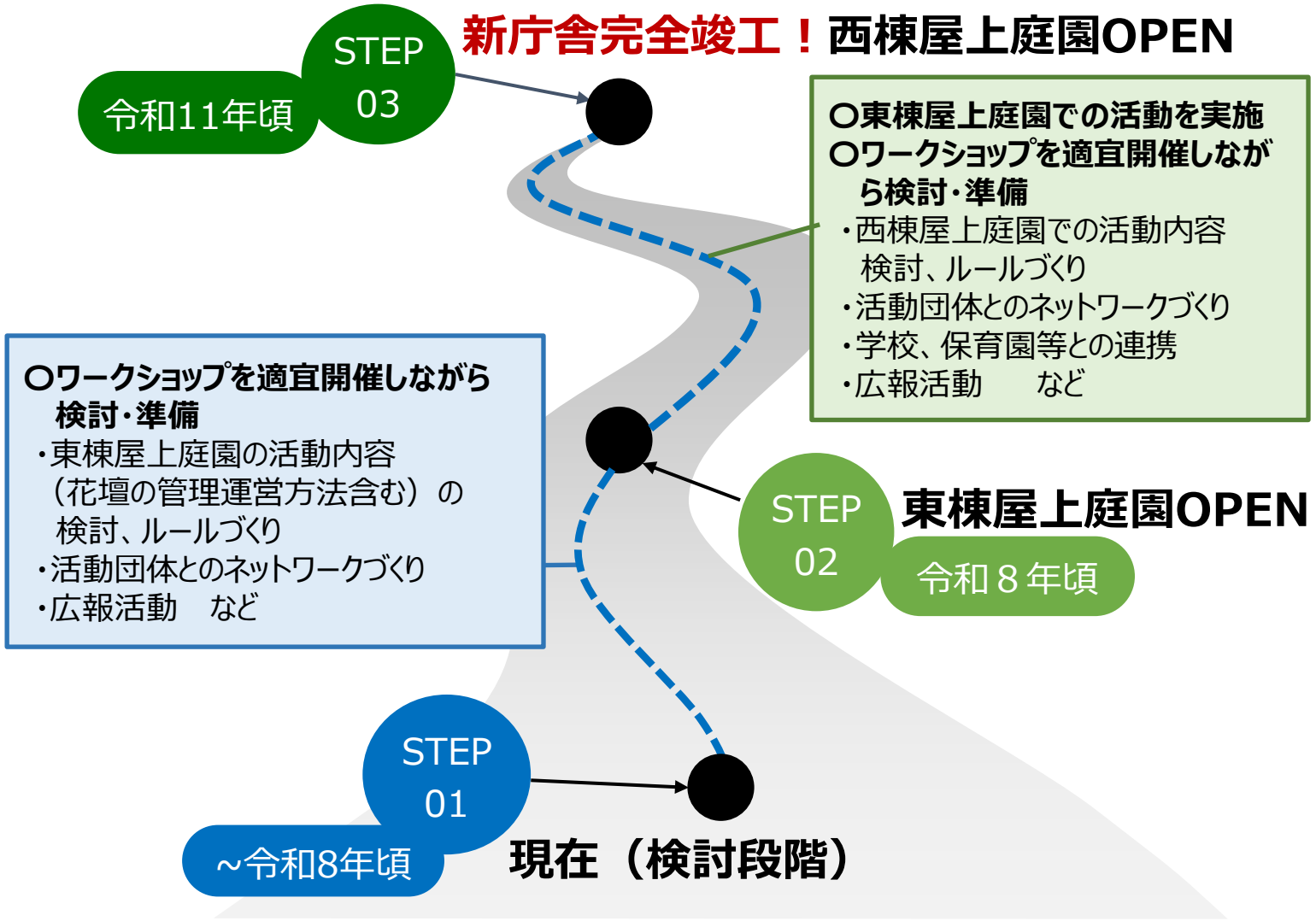
令和５年度世田谷区提案型協働事業　成果報告会

世田谷区
庁舎整備担当部庁舎管理担当課

（MC３）活動報告

東棟屋上庭園の花壇設置（イメージ）

課題とロードマップ（イメージ）



シンポジウム グリーン・コミュニティの未来へ ～街の小さなみどりを市民の手で共治しよう！～

みどりのシンポジウム

グリーン・コミュニティの未来へ

～街の小さなみどりを市民の手で共治しよう！～

開催日時	2024年2月26日（月）18:30～20:45（18:00開場）
会　場	北沢タウンホール（世田谷区北沢2丁目8-18）
参加料	無料　　定　員　200名
申込方法	コチラのフォームで https://forms.gle/JRvfE53LyqvHd2TN7

PSACE Portland・Setagaya Association of Cultural Exchange

グリーン・コミュニティ
成熟したウェルビーイングな未来では、人びとののくらしは、自然の恵みに支えられている。
住民同士は助け合い、コミュニティのつながりが穏やかに保たれている。

世田谷ポートランド都市文化交流協会（PSACE）では、昨年から世田谷区の〈提案型協働事業〉に取り組んでいます。「マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ」の事業は、道路植栽や小規模な公園・緑地などの身近な公共のみどりを、市民の手で管理し利活用していく仕組みを作ることを目指しています。

今回のシンポジウムでは、この事業の目的や実施内容をご紹介するものです。
世田谷のみどりを地域で守り、将来世代につないでいくことの大切さを、みなさまと共に考えたいと思います。

【プログラム】
Ⅰ．基調講演：グリーン・コミュニティの未来へ
涌井史郎氏（PSACE顧問）
Ⅱ．「マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ」とは
Ⅲ．初年度の活動から
～道路植栽／公園・緑地／新庁舎屋上庭園ワークショップ
Ⅳ．トークセッション
竹内智子氏（千葉大学准教授）＋保坂展人区長 ほか

涌井史郎氏 東京都市大学特別教授
竹内智子氏 千葉大学准教授
保坂展人氏 世田谷区長

MC マイクロ・コモンズ スチュワードシップ

マイクロ・コモンズ
通常の「コモン」（共用管理地）よりも小さな、近隣住民が気軽に手入れや利用ができるサイズの身近な公共のみどりを、このように呼ぶことにしました。

スチュワードシップ
「財産管理人」の意味です。欧米の先進的な都市には、市民が公園や道路植栽を手入れして、環境づくりに励む仕組みが採り入れられています。この〈世田谷版〉の創設を目指しています。

北沢タウンホール 地図　小田急線・井の頭線 下北沢駅より徒歩5分 ▸

このシンポジウムは、令和5年度世田谷区提案型協働事業の一環として実施するものです。
事業名： マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
実施団体： 世田谷ポートランド都市文化交流協会（ホームページ： https://psace.jp/）
協働の担当課： みどり政策課／庁舎管理担当課／都市計画課
問合せ先： PSACE事務局 info@psace.jp

世田谷ポートランド　検索

2024年2月26日 於北沢タウンホール 参加者107名にて開催

【PROGRAM】

Ⅰ．基調講演：グリーン・コミュニティの未来へ　涌井史郎氏（東京都市大学特別教授）

Ⅱ．「マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ」とは

Ⅲ．初年度の活動から
MC1（道路植栽）……「みんなの道路は、みんなで美しく」
八木橋スミコ氏（桜木清掃部）

MC2（公園・緑地）…ライフワークとしての住民協働の公園・広場づくり
鎌田菜穂子氏（一般社団法人ツナグバヅクリ）

MC3（新庁舎）……10.29「新庁舎の屋上庭園の未来を描こう！」ワークショップ報告
山地弘氏（庁舎管理担当課係長）

Ⅳ．トークセッション
竹内智子氏（千葉大学大学院准教授）＋保坂展人区長＋Ⅲメンバー

マイクロ・コモンズ・スチュワードシップが、今なぜ必要なのかを考える。

シンポジウム配布物から（左：キーワード／中：MC3タイプ／右：事例紹介）

マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
グリーンインフラ & コモン ～MCを理解していただくためのキーワード

グリーンインフラ Green Infrastructure

「グリーンインフラ(GI)」という用語が、日本で初めて公式に使用されたのは、国の「国土形成計画」の中でのことであり、2015年8月でした。世田谷区では、「みどりの基本計画」と「豪雨対策特別計画」(共に2018年4月)において、GIが初めて登場しました。このように、まだ比較的新しい言葉ではありますが、地球温暖化が進む今、大変重要な考え方です。

米国型 雨水流出抑制

植栽や土壌のもつ自然の仕組みを利用して、雨水の貯留・浸透、流出抑制、汚染物質の除去、地下水涵養などを行い、洪水などの対策にしようという考え方

雨庭・緑溝は典型的GI、ほかに雨水浸透には浸透管・浸透ます、貯留には貯留槽など。

区立シモキタ雨庭広場

×

EU型 生態系サービスの活用

自然や生態系がもたらす恵みを「生態系サービス」と呼び、社会の課題解決に役立てようとする考え方

右は世田谷の生物多様性戦略・生きものつながる世田谷プランに基づくガイドブックです。生態系サービスには、ヒートアイランド現象の緩和など、様ざまな効用があります。

どちらも大切・必要！

GIへの関心の高まりの背景 ➡ 気候変動(地球温暖化による激甚自然災害の多発)
グレーインフラの限界を知り、適応策としてGIを積極的に活用することが、グリーン・コミュニティの未来を切り拓く

グレーインフラ
道路・港湾・堤防など、コンクリートやアスファルトによる人工構造物に代表される従来型の社会基盤を指します。
グリーンインフラに比べて堅牢ですが、経年劣化が不可避・環境負荷が高い・高コストなどのデメリットがあり、GIとの適切な役割分担が望まれます。

緩和策と適応策
温室効果ガスの排出削減や吸収の対策が「緩和策」です。再生可能エネルギーの普及、植物によるCO_2の吸収等が挙げられます。
これに対して、気候変動影響の軽減や、新たな気候条件を逆に利用する試みが「適応策」です。洪水危機管理や熱中症予防、生態系の保全等があります。

コモン Commons

「コモン」は古くから現代まで、世界中に似たような仕組みと場所が認められます。2000年以降、コモンをめぐる概念は多様性を帯びて来ており、また最近の日本では斎藤幸平氏などの論者による「コモンの再生」を社会変革の鍵と捉える考え方に、注目が集まっています。
MCもまたコモンです。コモンについて簡明にご説明します。

「神宮外苑の再開発なども、〈コモン〉の破壊の典型です」(斎藤幸平)
「あえて「〈コモン〉とは「自治」のことだ」と考えてみたい」(松本卓也)
「集英社シリーズ・コモン」創刊記念対談での発言から

コモンズとは、私的所有でも、公的に所有されているものでもない、地域共同管理(所有や利用を包含した)の対象としての自然資源であり、また、この資源の共同管理制度である
井上真 編著『コモンズの社会学』

コモンの三大要素

自然資源 ／ 管理・利用 ／ 地元民主体

コモンは、第一に地域の「自然資源」です。
単に利用するだけではなく、管理も伴うもの、即ち「共同管理」が第二の特徴であり、この制度のこともコモンと呼びます。その担い手が、地域の「地元民主体」であることを含めて、三大要素と言えます。

広がるコモン観…ニューコモンズ・マップ
ヘス(2008)に基づく

左のような「伝統的コモン」観に対して、近年は「自然資産(環境)」にとどまらず、「文化」「知識」にまで及ぶ多様な領域が対象となっています。MCは「近隣のコモンズ」に属し、それを支える制度がスチュワードシップという関係です。

世田谷みどり33
© 世田谷区

草の根のGI戦略であるMCで、世田谷みどり33(みどりの質・量・協働三位一体の目標)に貢献しよう！

街の小さなみどりを Micro Commons

MC マイクロ・コモンズ スチュワードシップ

市民の手で共治しよう! Stewardship

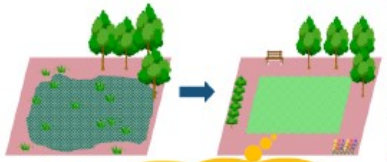
MC1 歩道(公道)の植栽部分

ツツジだけではなく
いろいろな植物があればいいのに…

世田谷区の道路率は17.3%
ウォーカブルなまちづくりに、市民も貢献したい！

ポートランドの事例
スチュワードシップ制度により市民が管理しています。
その上、グリーンインフラ化されて緑溝(バイオスウェル)が施された〈グリーンストリート〉となっています。

MC2 小規模緑地・街区公園など



自分たちで手入れして
居心地よくできたらいいのに…

フェンスで囲われた公共空間は、もったいないなと思う。
上手に管理し、活用するにはどうしたいいのだろう？

世田谷区立峰松緑地
「タヌキが暮らす街なかの自然」として『ダーウィンが来た！』で紹介された峰松緑地は、ふだんはフェンスで囲われ施錠されています。市民による管理活動が静かに始まっています。

MC3 新庁舎の屋上庭園と広場

世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設運営基本計画
(3)みどりで多様な主体をつなぎ、心潤う環境をつくる
■「世田谷みどり33」をめざした「区役所一帯のみどりの拠点」として、魅力ある緑化空間づくりと拡大に取り組み、みどり豊かで住みやすい「世田谷らしさ」のある風景の創出によって、みどりの量と質を高めることに貢献する。
■多様な人々がみどりを通して環境と調和する場をともに創り上げ、その多面的機能や価値を共有し、すべての持続可能性の基層である「環境」にかかる負荷を低減させるための意識を醸成する。
世田谷区HPより転記

この基本精神に基づいて、私たちにできることは何だろう？

MC1 桜木清掃部の活動

@補助第128号線(桜)

毎週水曜日の朝、みんなで清掃活動をしています。夏の猛暑でツツジは枯れ込み、ゴミの不法投棄も目立ちます。
「東京ふれあいロード・プログラム」には、思わぬ壁が立ちはだかったものの、いずれ再挑戦します…

MC2 世田谷区立峰松緑地で

緑地内では、農業大学庭道部のみなさんによる竹垣づくりをはじめ、植物調査や「世田谷落ち葉ひろいリレー」での整備活動等、さまざまな管理と利活用の試みが行われています。
定期的な管理活動を重ねてきた結果、緑地内の環境は、以前より目に見えて改善されました。
自然環境の保全における適切な管理の必要性を、改めて強く感じています。

MC3 10.29ワークショップ

庁舎管理担当課との協働により実施しました。
午前中の座学に始まり、午後はグループワークと屋外での実習と、盛りだくさんの内容でした。
グループワークでは、屋上庭園への貴重な意見が数多く寄せられたほか、MC1参画のためにグループを結成した参加者が現れたのも大きな成果です。

グリーンアップサイクル GREEN UPCYCLE

着古した衣料品をアップサイクルした素材で作ったプランター。広場の緑化に使うことを目指し、ワークショップ用に試作しました。

マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
詳細は、以下のホームページにアクセスしてください。
■事業の全体 ➡ https://00m.in/JvYBA
■選定委員会発表資料 ➡ https://00m.in/mtSLi
■世田谷ポートランド都市文化交流協会 ➡ https://psace.jp/

世田谷 協働事業 🔍
世田谷 ポートランド 🔍

第2部：左・中を中心に　第3部：右を各当事者・関係者が講演

キーワードから ❶グリーンインフラ

グリーンインフラ Green Infrastructure

「グリーンインフラ(GI)」という用語が、日本で初めて公式に使用されたのは、国の「国土形成計画」の中でのことであり、2015年8月でした。世田谷区では、「みどりの基本計画」と「豪雨対策特別計画」(共に2018年4月)において、GIが初めて登場しました。このように、まだ比較的新しい言葉ではありますが、地球温暖化が進む今、大変重要な考え方です。

雨水流出抑制は、もちろん重要。だが…

米国型 雨水流出抑制

植栽や土壌のもつ自然の仕組みを利用して、雨水の貯留・浸透、流出抑制、汚染物質の除去、地下水涵養などを行い、洪水などの対策にしようという考え方

雨庭・緑溝は典型的GI、ほかに雨水浸透には浸透管・浸透ます、貯留には貯留槽など。

区立シモキタ雨庭広場

×

EU型 生態系サービスの活用

自然や生態系がもたらす恵みを「生態系サービス」と呼び、社会の課題解決に役立てようとする考え方

右は世田谷の生物多様性戦略・生きものつながる世田谷プランに基づくガイドブックです。生態系サービスには、ヒートアイランド現象の緩和など、様ざまな効用があります。

生態系サービスの活用も、同じく重要。

多くの市民の生活に密着しまた市民が参画しやすいのは、こちらの側面

MCしかり。

どちらも大切・必要！

GIへの関心の高まりの背景➡気候変動(地球温暖化による激甚自然災害の多発)

グレーインフラの限界を知り、適応策としてGIを積極的に活用することが、グリーン・コミュニティの未来を切り拓く

グレーインフラ

道路・港湾・堤防など、コンクリートやアスファルトによる人工構造物に代表される従来型の社会基盤を指します。
グリーンインフラに比べて堅牢ですが、経年劣化が不可避・環境負荷が高い・高コストなどのデメリットがあり、GIとの適切な役割分担が望まれます。

緩和策と適応策

温室効果ガスの排出削減や吸収の対策が「緩和策」です。再生可能エネルギーの普及、植物によるCO_2の吸収等が挙げられます。
これに対して、気候変動影響の軽減や、新たな気候条件を逆に利用する試みが「適応策」です。洪水危機管理や熱中症予防、生態系の保全等があります。

適応策として、グリーンインフラの生態系サービスの活用機能を生かすことが重要！

コモン Commons

「コモン」は古くから現代まで、世界中に似たような仕組みと場所が認められます。2000年以降、コモンをめぐる概念は多様性を帯びて来ており、また最近の日本では斎藤幸平氏などの論者による「コモンの再生」を社会変革の鍵と捉える考え方に、注目が集まっています。
MCもまたコモンです。コモンについて簡明にご説明します。

「神宮外苑の再開発なども、〈コモン〉の破壊の典型です」(斎藤幸平)
「あえて「〈コモン〉とは「自治」のことだ」と考えてみたい」(松本卓也)
「集英社シリーズ・コモン」創刊記念対談での発言から

コモンズとは、私的所有でも、公的に所有されているものでもない、地域共同管理(所有や利用を包含した)の対象としての自然資源であり、また、この資源の共同管理制度である
井上真 編著『コモンズの社会学』

コモンの三大要素

自然資源 | 管理・利用 | 地元民主体

コモンは、第一に地域の「自然資源」です。
単に利用するだけではなく、管理も伴うもの、即ち「共同管理」が第二の特徴であり、この制度のこともコモンと呼びます。その担い手が、地域の「地元民主体」であることを含めて、三大要素と言えます。

広がるコモン観…ニューコモンズ・マップ

ヘス(2008)に基づく

左のような「伝統的コモン」観に対して、近年は「自然資産(環境)」にとどまらず、「文化」「知識」にまで及ぶ多様な領域が対象となっています。
MCは「近隣のコモンズ」に属し、それを支える制度がスチュワードシップという関係です。

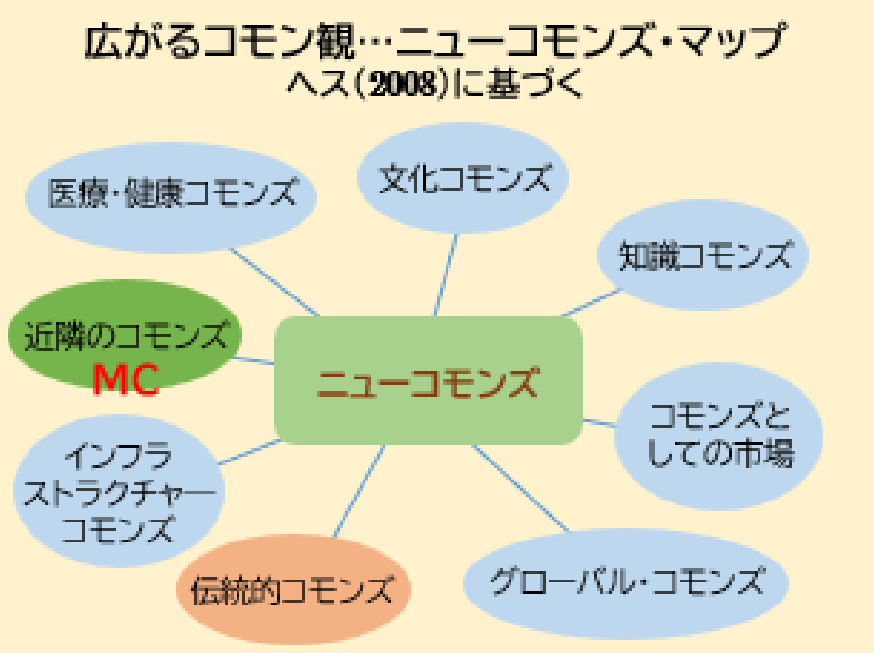
世田谷みどり33
© 世田谷区

草の根のGI戦略であるMCで、世田谷みどり33(みどりの質・量・協働三位一体の目標)に貢献しよう！

マイクロ・コモンズは、伝統的コモンズの性格を備えた近隣のコモンズである。

マイクロ・コモンズは、〈伝統的コモンズ〉の性格を備えた〈近隣のコモンズ〉である。

Neighborhood Commons



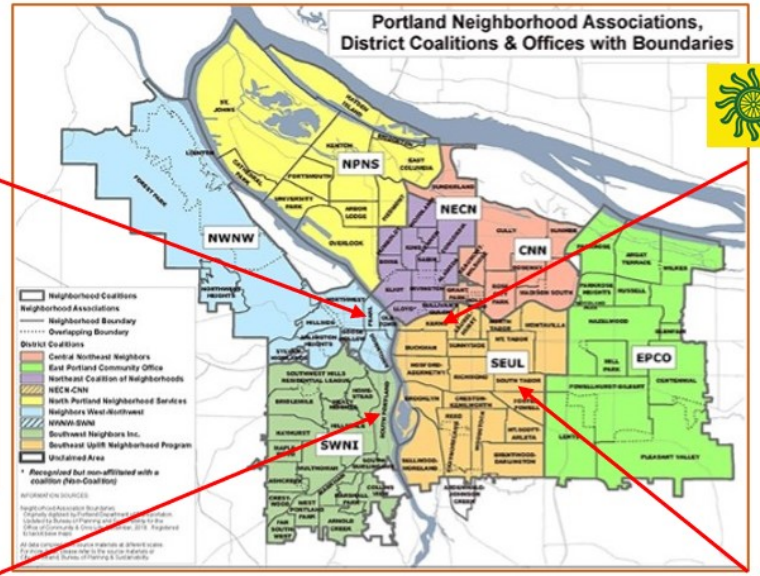
C. ヘスによる〈近隣のコモンズ〉に分類されるのは、
コミュニティ・ガーデン／歩道／道路（車道）etc.
これらはまさにマイクロ・コモンズ的である。

伝統的コモンズの三要素

自然資源　管理・利用　地元民主体

規模が違うが…　Neighborhood Associations　ポートランドの場合

Pearl District Neighborhood Association



Kerns Neighborhood Association

ポートランド市にネイバーフッド・アソシエーションは全部で94ある

SOUTH PORTLAND NEIGHBORHOOD ASSOCIATION

SOUTH TABOR

ネイバーフッド・アソシエーションは、全米各地に存在するが、ポートランドのそれは、市政運営の正式な機関として組み込まれていることが特徴。

サンフランシスコ　San Bernardino NEIGHBORHOOD ASSOCIATIONS

ワシントンハイツ　WASHINGTON HEIGHTS NEIGHBORHOOD ASSOCIATION EST. 1991

ルーズベルトパーク　ROOSEVELT PARK NEIGHBORHOOD ASSOCIATION

近隣…グリーン・コミュニティにおける重要な規模感・距離感　そしてコモンは自治、「共治」

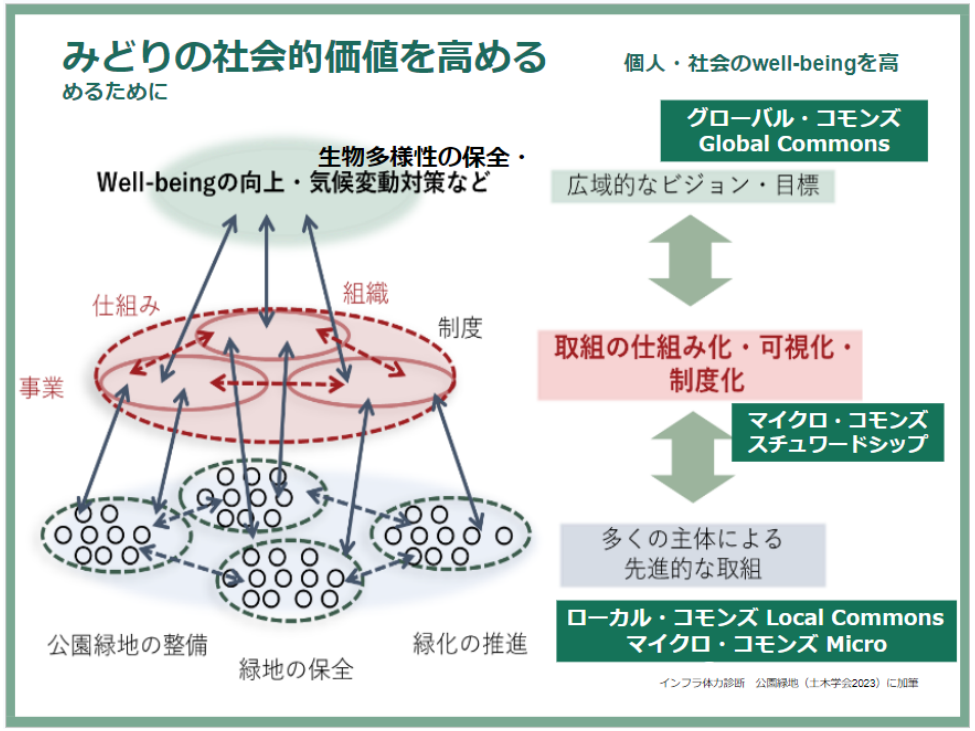
シンポジウムから

「グリーンインフラは入口、グリーン・コミュニティが出口」涌井史郎氏

グリーンインインフラは手段であって、グリーン・コミュニティこそが目的である。「グリーンインフラは、コミュニティ再生のプロセス」なのである。

「生活以上コミュニティ未満」八木橋スミコ氏（桜木清掃部）

日頃の活動に対する実感をこのように表現した。これこそ「Neighborhood（近隣）」の規模感・距離感」を絶妙に言い表していると思える。



「あらゆる公共事業の整備費の1%を グリーン・コミュニティに！」竹内智子氏

第4部に登壇した竹内智子氏は、ご自身で準備したスライドでミニ・レクチャーを実施。
アンケートでは、それに対する高評価が全プログラムを通じて最も多かった。

左の画像は、その際用いたものの一つ。
MCを、最上位の広域的なビジョン・目標（それは「グリーン・コミュニティの実現」と言える）との関係において、明確に位置付けてくださり、わかりやすい。

〈公園緑地を核とした人中心のまちづくりへ、4つの提言〉のスライドでは
①「画一的な計画・設計・施工・管理・運営の分業」から「官民連携の地域マネジメント」へ
→仕事の縦割り体制を解消し、計画～管理運営までトータルで地域ごとに実施、官民の人材を育成し、市民力を活かす
など、貴重な提言をいただいた。

世田谷区の緑被率が都内4位に低下した今、世田谷みどり33の〈質〉〈協働〉への着眼が必要

選定委員からのご意見

○地域の小規模な自然資源の区民による管理・利活用を通して、区民の参加と協働によるグリーンインフラの整備につながる事業と評価できる。

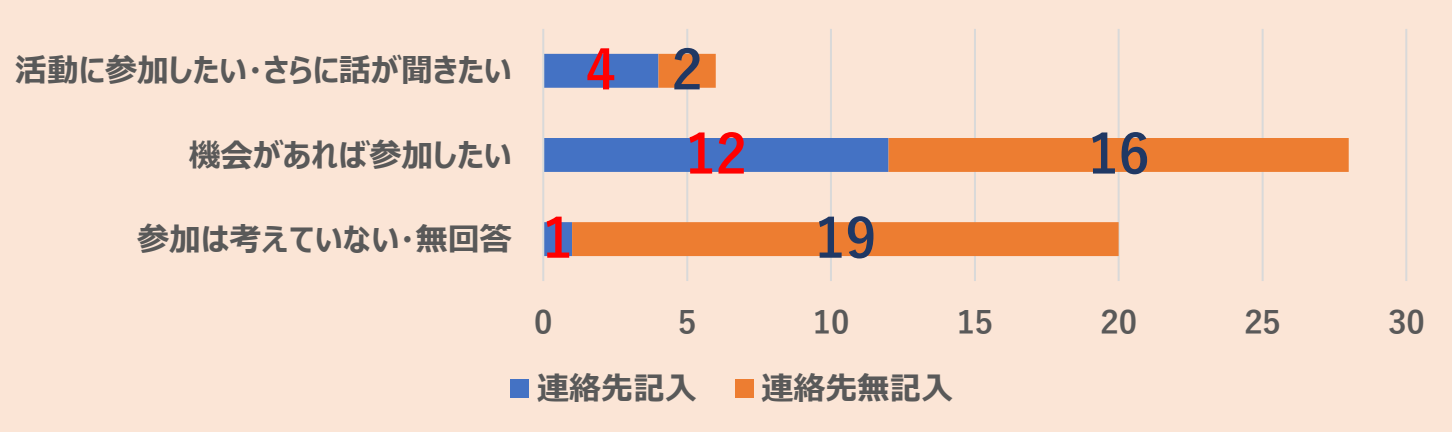
○スチュワードシップのような区民の意識の醸成を、具体的なマイクロ・コモンズ（地域の自然資源）の変化を提示することにより促すという方法は、単なる講演や啓発事業に比べより効果的に実現できると期待できる。

○今年度の事業におけるそれぞれのマイクロ・コモンズでの取り組みが、次年度以降のより多くの区民参加へとつながるよう取り組んでほしい。

○提案団体と事業にかかわる区のさまざまな部局が協働することにより、区民参加によるグリーンインフラの整備に向けた区の部局間協働が進むことにも期待したい。

より多くの区民参加

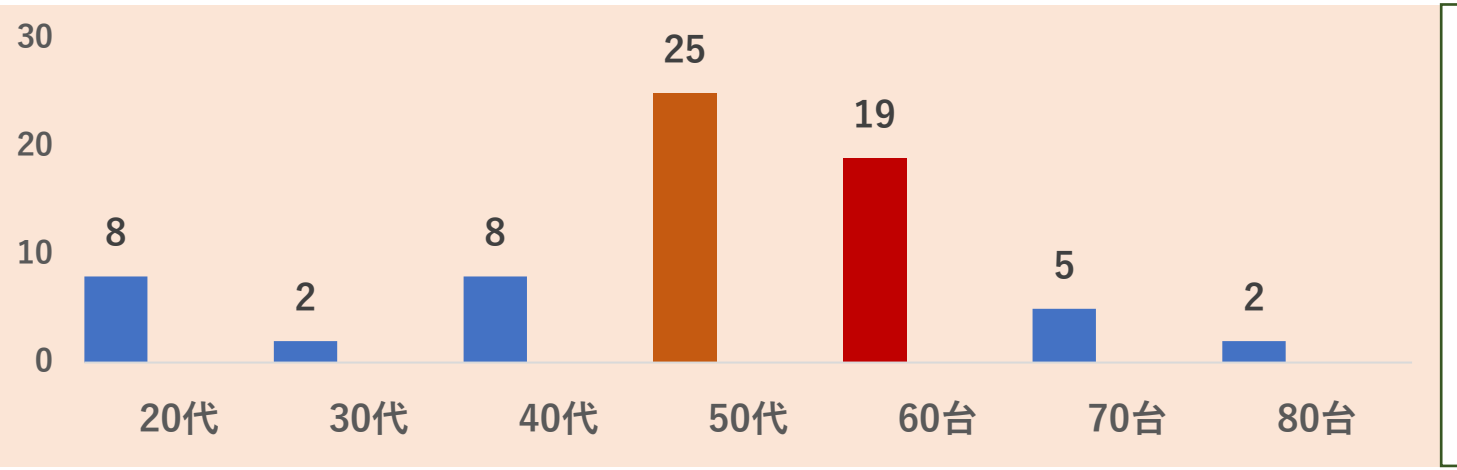
アンケート回答者54名中　参加希望者は34名（63．0％）、内半数の16名が連絡先記入



◆今回の参加者から、数名が次期メンバーに加わるものと期待

◆目下のMC1案件相談グループは、10．29ワークショップ参加者が中心
⇒イベント機会は重要（量より質…）

一般参加者68名の年齢分布　50代・60台が44名（63．8％）を占めた



◆関心層・実働準備層は中高年である

◆20代・30代の将来世代への啓発は重要である。が、世代間には自ずと役割分担がある。恒常的なMC活動を担う主力は中高年・それを市民感覚で支える他世代、が現実的ではないか？

次年度の拡大に期待していただきたい。

グリーンインフラの整備に向けた区の部局間協働

担当課3課＋公園緑地課のオブザーバー参加

エントリー段階から、公園緑地課にはほぼすべての打合せ等の場にご同席いただいた。
今後は、道路担当部門など、引き続き関係部局との調整の労をとっていただくこととなる。

シンポジウムへのご参加

保坂区長以下、都市整備政策部門を中心に、部長4名・課長6名を含む22名の職員の方々が参加した。

3.14　都市整備委員会所管質疑

シンポジウムを踏まえて、コモンとグリーンインフラについて中山瑞穂議員が質問／みどり政策課北川課長、公園緑地課岸本課長、豪雨対策・下水道整備課鎌田課長が答弁

グリーンインフラガイドライン（案）

2.6　都市整備常任委員会で報告があった由
グリーンインフラの機能・効果を12の観点からまとめるなど、総合的・網羅的なものだという。

一区民としてその内容に大いに期待するとともに、今後の協働事業においても紹介・学習機会を設けたいと考える。

そして、グリーンインフラの整備に向けた市民協働

シンポジウム　アンケートの自由回答から

「維持費、管理費的問題があるため、マイクロ・コモンズ的アプローチは非常に効果的だと感じた。特にMC1の八木橋さんのお話は興味深く、子供達を巻き込んだ活動が街の活性化につながると感じた。」（20代）

「小さな活動・取組みが長く続く、それこそ誇りであるという話がよかった。」（50代）

「マイクロ・コモンズ・スチュワードシップについてもっと自分で調べて学びたいと思いました。また、私も小さなところで（桜木さんたちのように）楽しい何か役に立つことをしたいと思いました。」（不明）

「あらためて世田谷区民であることを誇りに思いました。ぜひ担い手としてMCの文化を広げていけらたと思います。」（40代）

他地域への拡がり

「隣の杉並区から来ました。杉並には『みどりのボランティア』というものがあります。世田谷の活動やグリーンインフラの状況にさらに興味が湧きました。」（50代）

「小さなみどり、渋谷区の町会で活動してます。マイクロ・コモンズ・スチュワードシップで緑被率を2位ぐらいにしてみます。6月2日の『まちの文化祭』で活動展示をしてくれませんか？

＊グリーンアップサイクルは、既に展示決定

ほかにも大田区・川崎市・市川市など、さまざまな自治体の市民から、感想を受けとった。

次年度以降へ向けて

令和8年度

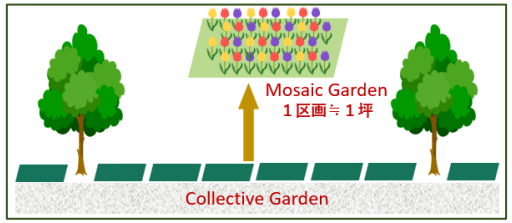
マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
総仕上げ
記念イベント（？）

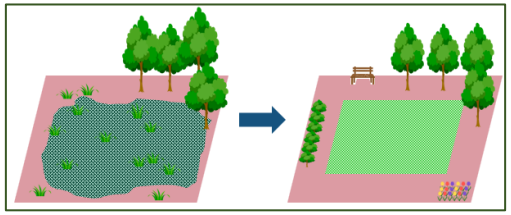
令和7年度

スチュワードシップ
素案策定

令和6年度

マイクロ・コモンズ
MC事例の開拓と実践
制度設計のための材料を集積





令和5年度

マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
基盤の確立
初年度の集大成…シンポジウム